

事故を考える

工学的な事故解析から考える交通安全
「自転車の事故例から学ぶ」
上山 勝氏（「交通安全教育」2016年10月号）

はじめに

これは（一財）日本交通安全教育普及協会が発行している「交通安全教育」誌から内容を抜粋したものです。図も同論文から引用させていただきました。

■ 自転車の事故例

● 事故の概要

片側2車線の市内幹線道路の交差点で乗用車と自転車の衝突事故が発生した。この交差点には右折専用車線が設けられており、見通しは良好である。自転車の乗員は、乗用車の側面に衝突し、路上に投げ出された。危うく後続の乗用車に轢かれそうになったが、後続車の運転手が急ブレーキとハンドル操作により回避できた。

図1の ⊗ 印が衝突地点で、その手前にはスリップ痕があった。

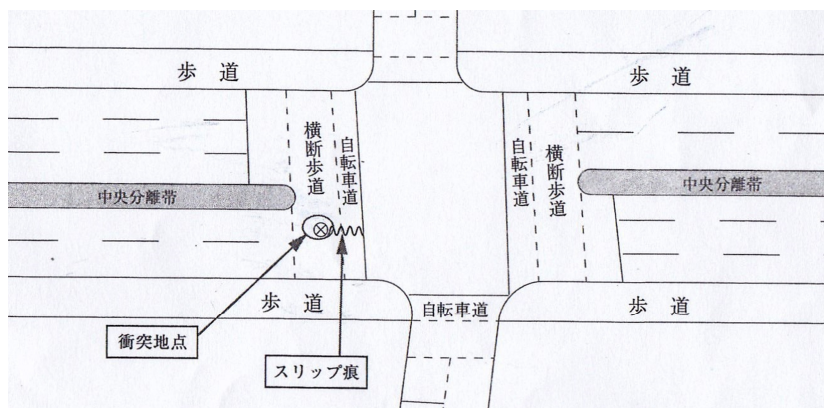


図1 事故発生交差点の状況

● 事故発生状況

自転車の前輪タイヤがほとんど破損していないので、図2のように衝突したものと推定された。

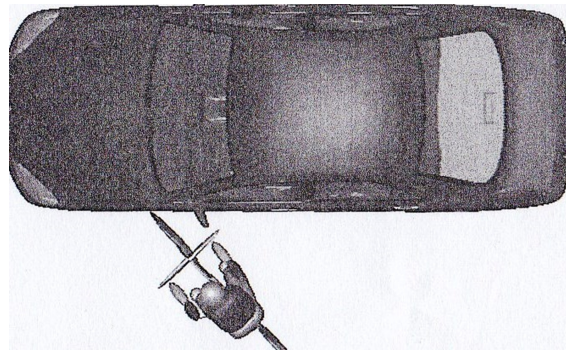


図2 衝突状況推定図

■ 事故状況と事故原因

● 事故状況

信号は青であった。自転車の詳細な走行経路は、不明であるが、図3のいずれかの破線に沿って走行したと思われる。明らかであったのは、自転車が右折しようとしたことである。

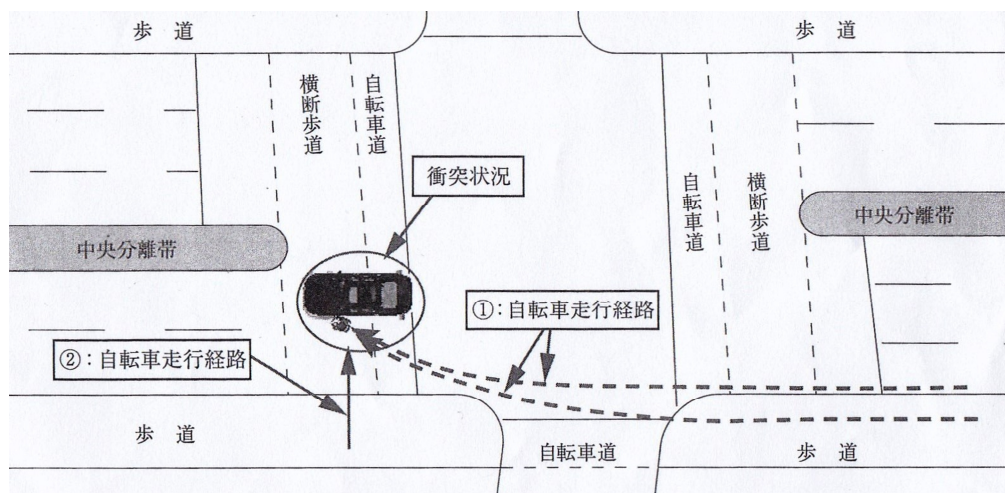


図3 事故発生状況の推定図

● 事故原因

自転車が交差点で急に横断歩道又は自転車道を右折しようとしたことが、事故原因として推定された。急いでいたことと、接近車両と自車との距離が十分にあるとの誤判断を行ったことが推定される。

■ 安全対策と今後の課題

- 自転車は「車両」であるということを十分認識すべきである。
- 「信号遵守」が第一である。
- 生活道路等の小さな信号交差点で、信号無視をする者が散見される。そのような安易な習慣が、重大事故につながることに留意すべきである。

以上